

改めて自己紹介をさせてください

正能 茉優 しょうのう まゆ

- パーソルキャリア 「サラリーズ」 事業責任者
- ハピキラFACTORY 代表取締役
- 慶應義塾大学大学院 特任助教

2014年 慶應義塾大学卒業後、博報堂・ソニーを経て、
2021年7月 パーソルキャリア入社。

大学時代に始めた地域の産品をかわいく発信・販売する
ハピキラFACTORYとしての活動をしながら
東京で会社員としても働く「パラレルキャリア女子」。

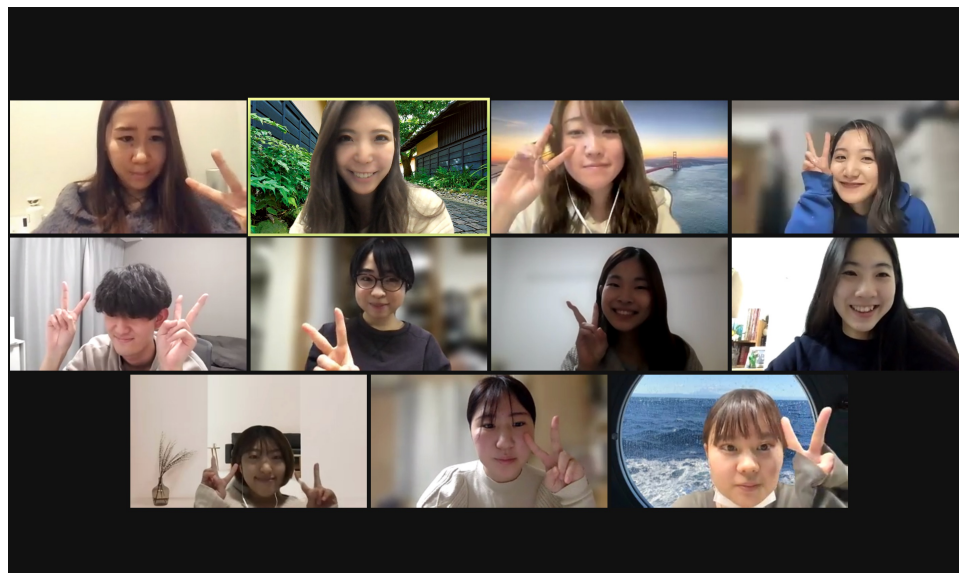
その経験を生かし、現在は慶應義塾大学SFCにて、
「長野県小布施町における新事業創造プログラム」を運営中。

2010年「まちづくりインターンシップ」を機に
長野県小布施町に出会う。



その後、大学3年生の時に、ハピキラFACTORYの活動スタート。 2

慶應義塾大学 × 長野県小布施町 「新事業創造プログラム」



2017年度からはリアルで、2020年度からはオンラインで

学生の好きなことを、地域“で”しごとにする。

学生の好きなこと



「デザインが好き！」
「インスタ映えする写真を撮るのが、得意」
「流行りのお店、たいてい行ってます！」



地域の困っていること



「若者向けの商品をつくりたい！」
「SNSでの発信の仕方がわからない…」
「若者向けの調査をしたい」

卒業後は、地域“で”働く場合も。就職して、地域“でも”働く場合も。

地域 “を” → 地域 “で”

地域 = 都市部で閉塞感を感じている人が
思い切り力試し・力磨きできる場なのでは？

都市部で閉塞感を感じている人が、地域を魅力的に思う理由

- ① 活動に大義を持たせやすい
- ② 総合力が試されるので、すべて自分で
- ③ 学びと実践の距離が近い

いかに始め、いかに続けられる仕組みをつくれるかが鍵。

地域と人の
マッチングを行い、
プロジェクトを
地域で動かしてもらう



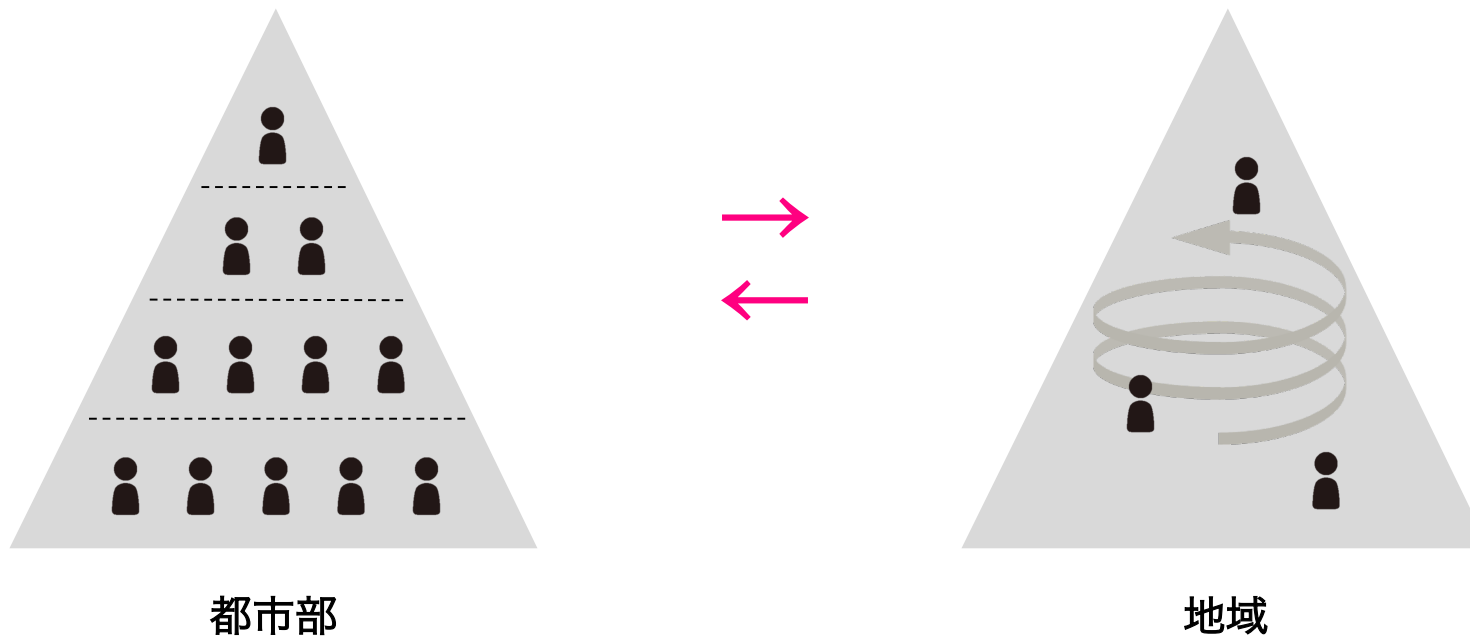
活動を続ける選択肢を
提供する
or 創造してもらう

- 若者なら、地域おこし協力隊
- 30代以上なら、プロ人材・先導的人材

- ソーシャルベンチャー創業
- 都市部と兼ねるなら、2拠点
(地方創生テレワークの活用など)

すでにある事業でパーツは揃っており、繋ぎ込みを加速させたい。

地域と都市部における人材の行き来がデジタルの力で加速し、
個人の力が常に磨かれ続ける。



ソーシャルベンチャー発グローバル企業が生まれ、
都市部にも、地域で育った力ある人材が流れるようになる。